

聞いてみたい!

「ビリギャル」小林さん 初の書き下ろし本、込めた思いは?



西沢記者



「ワクワクする目標」見つけて

映画でも話題となった「学年ビリのギャル」が1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話(坪田信貴著、KADOKAWA)の主人公「ビリギャル」こと小林さやかさん(31)。今年3月、小林さん本人による初の書き下ろし本が出版されました。著書に込めた思いを聞いてきました。(高3・西沢桃佳、高2・山口万由子、中3・橋本玄太郎、中2・塚原瑠奈、小5・吉田桜記者、撮影＝片岡航希)

ジュニアプラス

偏差値30から慶応
「高校生の時は遊ぶのが楽しくて、どうしたら先生にばれずに髪を染められるかとばかり考えていました」
小林さんは、かつての自分を振り返ります。

当時の偏差値は30。弟の代わりになまたま行った塾で、「人生楽しそう」と感じさせてくれる大人、坪田先生に出会います。「『けいおう』っていう大学に、君みたいな子が行ったら、ドラマチックだよなあ」と言われて、「『嵐』の桜井翔くんが行ってるよこた」とその気になり、慶応大受験を決意。約1年半、一日15時間に及ぶ猛勉強の末、偏差値を40上げて、慶応大総合政策学部にて現役で合格しました。坪田先生がこのエピソードを「ビリギャル」の本にまとめ、それが映画化されたことで、小林さんは一躍有名になりました。

今回、出版された「キラッキラの君になるために」は、ビリギャルの物語(マガジンハウス)で、小林さんは、大学受験の経験を通して見つけた大事なことを挙げています。①ワクワクする目標を「自分で」設定する②根拠のない自信を持つ③具体的な計画を立てる④目標をまわりに言いふらす―などです。基礎を固めるのもとても重要で、問題をさらさら解ける時点まで遊んでやり直すと、「勉強が」できる」という感覚が得られて楽しくなる、と言います。

キラキラした世界

勉強をやめたいと思ったこともあったのですが、「ブライクラやカラオケで遊ぶより、受験を頑張った先にある世界の方がキラキラしていて確実に楽しいと思った」と言います。慶応に入学したことで「自分と同じくらい努力して入学した人の中で学ぶことができ、とても良い刺激になった」と話してくれました。志望校に合格しても、「もともと頭が良かったんだね」と、頑張りを認めてくれない人もいました。けれど、「不合格なら『やっぱり無理だったんじゃない?』と言われたはず。結果はそれだけ大事」。死ぬ気で取り組んだ受験勉強は、小林さんにとってかけがえのない財産になったようです。本には、受験以外の小林さんの体験談も詳しく書かれています。大学生活、ウエディ

▲ 受験時代のエピソードなどジュニア記者の質問に笑顔で答える小林さん



小林さやかさんの書き下ろし本「キラッキラの君になるために」。右は「ビリギャル」として知られるきっかけとなった坪田先生の本書

ンクプランナーの仕事に励んだ会社員時代、結婚、そして離婚……。

小林さんは「本を読むことは書いた人と出会うことだ」と言い、直接会えない人にも、自分が学んだ大切なことを伝えたいと思ってこの本を書きました。あまり本を読まない中高生にも読みやすいように、平易な文章にしたそうです。インタビュ어의時も、自分の言葉がきちんと私たちに伝わっているかを確認しながら、丁寧に話を進めてくれたのが印象的でした。

環境を変えたい

小林さんは今年の春から、大学院に通って教育学を研究しています。「日本には、自分のことを幸せだと思ってる子どもが少なけれど、自分の能力を伸ばせれば、子どもは幸せになれる。能力を伸ばせるかどうかは環境次第」と小林さん。子どもを取り巻く環境を変えるために、勉強に励んでいるそうです。ワクワクすることに向かって全力を尽くしている小林さんは、大きな壁にぶつかっても乗り越えられる強さを持っていると感じました。自分たちも、キラキラ輝く大人になるために、頑張りたいと思います。